

【校訓】
 自主
 根性
 協同

R5、7、20発行
 文責 光山

佐中生の輝く姿をたくさん見る事ができました！

令和五年度一学期もたくさんさんの行事・活動があり、昨日の授業参観、懇談会を含めて学校行事、生徒会活動、学年部の活動等を予定どおり終了することができました。これも、毎日の学校生活が充実するよう、また、安定した生活ができるように支えていただいた保護者の皆様のご協力があったからこそです。その支えがあった、それぞれの場面で自分のできる精一杯のパフォーマンスをしてくれたように思います。どの活動においても全力で取り組む佐中生の姿があったおかげで、一学期の学校生活が充実し、一日一日は長く感じられたようにも、一学期全体としては思いの外早く終わったように感じられるのだと思います。今回は、生徒たちの活躍の場面を画像で紹介しながら、一学期を振り返りたいと思います。



は何といっても体育大会でした。三年生中心に、短距離走、長距離走はもちろん集団行動やダンス、応援団演舞等、一つ一つの種目に全力を傾ける全校生徒の姿に、参観していただいた保護者や家族、地域の皆様に「元気」と「感動」を届けることができたように思いました。

四月は五十八人の新入生と七人の職員を新しく迎えたところが全てのスタートでした。入学式三日後には避難訓練を実施しました。生徒が避難できることよりも、教職員が機能的に動き、命を守る対応をすることができようになることを主な目的としました。十六日(日)には感染症対策に配慮しつつ第一回授業参観を実施しました。五月のメイン



⑤ また、本年度最初の研究授業(写真⑤)を英語科で実施しました。今崎指導教諭の公開授業には他校からもたくさんさんの参観者があり、生徒の活気ある反応もあり、充実した内容となりました。本校の研究テーマでもあるユニバーサルデザインの視点を持った授業づくりを各教科で実施する予定です。

六月は「心のきずなを深める月間」の取組を推進するという県教委の方向性もあり、本校でも「心のきずなを深める生徒サミット」(写真①②)や講師を招いての「人権学習」(写真③)、「ストレスマネジメント教育」(写真④)等、生徒の心を耕し、人権感覚の醸成を図る取組を多く行いました。このように日常的に人権感覚を育む取組を行いながら、月間を定めて講師の力をお借りしたり、全校生徒で意見を交流したりする学習を行うことで、生徒たちは人権や心の絆について、より深く考えることができたと思います。特に、スクールカウンセラーを招いて行ったストレスマネジメントの学習は、ストレスへの向き合い方をわかりやすく学ぶことができて、今の生徒にとって必要不可欠な学びであったと思います。



⑦ 私は、女子バレーボールと空手の応援ができました。バレーボールでは、一つのプレーで試合の流れ変わることを実感させられ、空手道では、一秒に満たない一瞬の技で勝敗が決する厳しさを学ばせてもらいました。勝敗は必ず伴うものですが、改めてこのような舞台に立つこと自体に価値があることが実感することができました。(光)

あとがき
 七月に入り中体連の県大会が始まりました。本校生徒は七月十五日の女子バレーボールをスタートに、十六日にはテニス、空手道、二十二日にはサッカー、陸上、新体操、相撲、二十三日にはバドミントンと多数の競技に参加しています。生徒にとっては夢舞台ですので、緊張もすると思いますが、学校代表・芦北水俣地区の代表として誇りをもち、堂々とした戦いと全力プレーを期待しています。